

Hello♪



ほめる子育てひろば

品川区教育委員会教育委員 富尾 則子

「ほめる子育て」が言われて久しいので、すでに実践されている方も多いと思いますが、いかがでしょうか？

私は所属している病院でグループの「ペアレントトレーニング（ペアトレ）」を行っています。これは、発達障がい児の保護者に対して行われるトレーニングです。行動に注目して「ほめる」ことが基本となっていますが、障がいのない子にも用いられることもあり、私自身、子育ての中で、この中のエッセンスが役に立つと感じることがありますので、少しご紹介したいと思います。

まず、当然「ほめる」こ

とが基本になります。そのほめ方も「いい子ね」ではなく、その行動が好ましい行動だった、と注目していることを子どもに伝えることが、「ほめる」ことになります。

普段ご家庭では、だいたい同じパターンで親子ゲンカになっていませんか？心の中で、「また、やっちゃったわ」と、反省しつつ、そのパターンを変えるのは少し難しいですね。

ペアトレでは、子どもの行動観察をして、些細な好ましい行動に対して、ほめるようにします。その方法も、大げさに抱きしめる方法から、視線を合わせて笑顔を返すなど、その子そ

の子にあったやり方があります。ほめるのが難しい場合も、「ありがとう」なら言いやすいようです。

タイミングも大切で、好ましい行動をやりかけた瞬間にすかさずほめるようにします。やり終えた時ではなく、行動を応援し続けるために。たとえ子どもが文句を言ったり、ふてくされた顔をしていたりしても、3回声かけて、できたら「OK」サインを出します。

けれど、これで全てを解決できるわけではありませんし、時に親の忍耐力を試されているように感じることがあります。普段と違うやりとりをすることで、少し心の余裕ができます。

「うちの子は好ましい行動がないので、ほめられない」とか「そんな当たり前のことをほめてもいいのか心配」などの意見もありますが、試しにやってみると雰囲気少し変わること気が付くかもしれません。

子育てには正解がありませんし、何くれとなく忙しい日々の生活を切り回すことで精一杯になりがちです。学校や幼稚園、保育園で頑張って過ごしている子どもたちが、家庭ではリラックスしながら、ほんの少しずつでもできることが増えると嬉しいですね。

平成28年2月20日

「品川区教育フォーラム」を開催しました

品川区教育フォーラム
品川教育ルネサンス
- For The Next Generation -



立会小学校 スクールプロモーション

品川区は、小中一貫教育をはじめとする様々な教育施策に取り組んでいます。

今、学校教育法の一部改正等、教育界は転機を迎えており、本区ではこの機を捉え、「品川教育ルネサンス・For The Next Generation」を掲げ、次代を担う子どもたちのための新しい「品川教育」の創生を目指しています。

今回のフォーラムでは、今まで培ってきた学校のよさやこれからの取組について、区民、全国の教育関係者に向けて、発表しました。

午前中は、各校で特色ある教育活動の授業公開と学校説明会を実施しました。

学校説明会では、品川区の教育施策DVDの上映、児童・生徒が自校のよさをアピールするプレゼンテーション等のスクールプロモーションが行われました。保護者や地域の方々を中心に、区立全校合せて13721人の方が参加し、区の教育の成果を子どもたちの姿で確認しました。

午後は場所をきゅりあんに移し、「品川教育ルネサンス・To The Next Generation」をテーマとした全体会が行われ、全国の教育関係者、地域や保護者、合



濱野 健 区長



下村 博文 氏



伊東 哲 氏

せて632人が参加しました。

開会に先立ち、濱野区長の挨拶では、義務教育学校の制度化や総合教育会議の実現などに触れ、本フォーラムを機に小中一貫教育、保幼小の連携などが更に推進されることへの期待が語られました。

御来賓の衆議院議員・前文部科学大臣下村博文様からは、現在の子どもたちが生きることになる将来の社会状況とこれから必要になる能力、教育の必要性等、教育関係者に対する激励を込めた挨拶がありました。

東京都教育庁の伊東哲指導部長からは、都の方針に基づいて進めている事業であるオリンピック・パラリンピック教育等について区との連携した推進の必要性が強調されました。

《講演》

「教育再生実行会議が目指すもの」

早稲田大学 総長

教育再生実行会議 座長

鎌田 薫 氏

続いて行われた講演会の概要です。

1 なぜ今教育か

少子高齢化の進展やそれに伴う経済成長の鈍化等により、社会保障制度の存続が困難になり、格差が拡大するなど、「成長し続け、安全で安心して暮らせる社会」「一人一人の豊かな人生」のいずれも実現しない恐れがあります。

一人一人の生産性を向上させるため、教育の充実が不可欠です。しかし、教育現場を取り巻く課題は複雑化・多様化しており、社会としての支援が必要となっています。

2 教育改革のけん引力としての

教育再生実行会議

日本の再生は、「経済の再生」と「教育の再生」が車の両輪となります。教育改革をけん引するために、現在までに第8次提言

を行いました。

今後は、情報化時代に求められる「多様な個性が長所として肯定され生かされる教育」への転換をテーマに検討を継続します。

3 教育再生の実施状況

有識者で「提言フォローアップ会合」を設け、確実な実行を目指し取り組んでいます。

《トークリレー》

全体テーマ

「品川教育ルネサンス

-For The Next Generation-

司会

中島 豊 教育長

アシスタント

沖津 那奈 アナウンサー

トークリレーでは、これから区が目指す新しい「品川教育」の創生の3つのテーマを、関係者のインタビューを中心に解説しました。

テーマ1

「義務教育学校」の設置

名城大学教授

木岡 一明 氏

荏原平塚学園校長

青木 経 氏

中学校PTA連合会長

中島 葉月 氏

保護者代表



である中島会長からの、義務教育学校設置による小・中学校への影響、後期課程から転入学する生徒の対応についての質問で幕をあげ、青木校長からは、現場の実態を踏まえ、質問に答える形で、小中一貫教育の更なる推進が区内全校の教育の質の向上につながることや、後期課程から入る生徒に配慮した小学校からの取組等について紹介がありました。

終わりに、木岡教授から、義務教育学校設置による懸念と、解決のための小中、小中連携による指導方法や内容の共有の推進について助言がありました。また、学校を選ぶ自由とそのため情報提供が必要であることが、課

題として挙げられました。

テーマ2

「品川コミュニティ・スクール」の実施

筑波大学教授

窪田 眞二 氏

浜川小学校 校長

矢田 雅久 氏

浜川中学校地域コーディネーター

巻島 淳子 氏



まず、巻島コーディネーターからは、初めての業務に取り組んだ苦労や工夫について話がありました。

続いて矢田校長から教職員の受け止め方の変化や、学校支援地域本部が入ったことによる教育内容の充実について話題提供がありました。

最後に、窪田教授からは、コミュニティ・スクールの導入に関して、懸念材料となっている「教職員人事に対する意見具申」の役割について、全国の先行事例をもとにした丁寧な説明がありました。そして、品川コミュニティ・ス

クールの特徴である学校支援の仕組みを取り入れることは、全国的にも二丁ズの高い取組みであるという解説もありました。

テーマ3

次期「品川区教育要領」の策定

筑波大学教授

樋口 直宏 氏

最後に登壇した樋口教授からは、品川区が独自にカリキュラムを作成し、実施してきたことが評価されました。

また、学習指導要領の改訂のポイントとなる教科の枠にとられない資質・能力の育成、独自に実施している内容とアクティブ・ラーニング等の学習方法との関連など、次期「品川区教育要領」の策定に向けた助言がありました。



この後、6つの教育課題に分かれての分科会が行われ、熱心な協議が続いていました。

品川の『オリンピック・パラリンピック教育』を2月からプレスタート

オリンピック・パラリンピック教育は、児童・生徒が、オリンピック・パラリンピックの歴史・意義や果たす役割を正しく理解し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への興味・関心を高めることを目的としています。

■区内開催3競技についてのオリジナル教材の活用

教育委員会では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において本区で開催予定の3つの競技「ホッケー」「ビーチバレー」「ブラインドサッカー」についての紹介教材を全校に配付しています。この教材には、競技に関するクイズや試合の迫力が伝わるような写真などが盛り込まれており、楽しみながら学習できるものになっています。

各学校では、校長講話で紹介したり、担任がホームルームで解説するなどしており、今後、東京

都から配付される読本やDVD教材も活用しながら、子どもたちが興味・関心をもてるよう工夫しています。



■4月から本格スタート・育てたい5つの輪

品川区のオリンピック・パラリンピック教育では、「おもてなし」「障害者理解」「スポーツ学習」「和の心」「国際的な視野」の5つを育てたい資質として設定しています。

例えば「おもてなし」では、市民科の授業やボランティア、交流などを通して、他者を思いやる心や社会に貢献する態度を育てます。

「障害者理解」では、アイマス体験やブラインドサッカー体験、障害者との交流等を通して、同じ社会に生きる人間として互

いに助け合い、支え合って生きていく力を育てます。

「スポーツ学習」では、スポーツ体験や調べ学習などを通して、スポーツに興味・関心を持ち、フェアプレーの精神や主体的に運動に取り組み、自ら体力を高める態度を育てます。

「和の心」では、日本人が大切にしてきた礼儀正しさと歴史、文化などを学ぶことを通して、日本人としての自覚と誇りを身に付けさせます。

「国際的な視野」では、世界の多様な国々の歴史、文化、習慣などを学ぶことや外国人や海外の学校、大使館等と交流すること等を通して、豊かな国際感覚を育てます。

育てたい5つの輪



■体験教室の実施

昨年度から、いくつかの学校において、ブラインドサッカーやホッケーの体験教室を実施しており、今後も、各協会や連盟と連携しながら、この3つの競技の体験教室を順次実施していく予定です。

平成28年度は、ブラインドサッカー教室を17の小・中学校と義務教育学校で実施し、平成29年度からは、ホッケー、ビーチバレーも加えて、全校で体験教室を行う予定です。

選手の動きを目の前で見たり、実際に体を動かしたりした経験は、子どもたちの心と体にレガシーとして残り、やがて大人になったときに次の世代に受け継がれていくことでしょう。

4年後の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、子どもたちがこの3つの競技を地元の競技として応援したり、ボランティア活動に参加したりするなど、様々な形で大会と関わっていただけることを願っています。

新年 本の福袋
グローバルおはなしルーム



本の福袋

品川区立図書館（全10館）は、1月4日、中身の分からない状態で本を貸し出す「本の福袋」を実施しました。これは、いつもと違うジャンルや作家の本を手にしていただこうと企画したものです。図書館員が選書し、児童書は年齢ごとに、一般書はジャンルごとに、3冊入りの福袋が30〜50セット用意され、好評のうち数日間でなくなりました。

図書館では、季節に合わせたイベントや企画を随時行っております。

その一貫として、1月31日、品川図書館で、英語のおはなし会

「グローバルおはなしルーム」が開催され、親子220人が参加しました。

このおはなし会は、これまで図書館のおはなし会で対象としていなかった外国語を母語とする子どもにも向けて行いました。

子どもたちの読書活動を支援し、また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国語や外国文化に触れてもらいながら、グローバルな人材育成を支援する区では初の試みです。

会場には外国の絵本も展示され、楽しみながら、英語に触れる機会となりました。

お気軽にお近くの図書館にぜひお立ち寄りください。



グローバルおはなしルーム

information

「品川区いじめ防止
対策推進条例」制定

本区では、平成25年に『いじめ根絶宣言』を掲げ、SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）、元警察官で組織する学校支援チーム「HEARTS（ハーツ）」や目安箱の設置等、様々ないじめ対策を進めてきました。

また、各学校では、校内組織を中心に関係機関と連携を図りながら、いじめの未然防止、早期発見・対応に向けて取り組んでおります。

しかし、いじめはこれからも社会問題として、一層複雑化することが予想されます。

平成25年6月には、国の『いじめ防止対策推進法』が公布されました。

「いじめは、どの学校にも、どの学級にも起こり得る」「いじめはどの子どもも被害者にも加害者にもなりうる」という認識の下、日常的に更なる未然防止に取り組む必要性が高まっております。

ます。

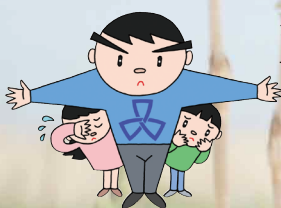
そこで、区教育委員会では、いじめの防止等について、改めて区の基本理念を明らかにし、子どもの教育に携わるすべての人が総がかりで解決に向けて取り組むため、『品川区いじめ防止対策推進条例』を制定いたしました。

本条例は、『いじめ根絶宣言』に基づいた前文と、『いじめ防止対策推進法』から本区の実態や実情に応じた内容を取り上げた23条で構成し、平成28年4月1日から施行します。

本条例に基づき、「全ての区民参加で、いじめは絶対に許さない社会をつくりあげる」等の実現に向け、区立学校、保護者、地域住民、関係機関等が連携を図りながら、それぞれの役割を担い、いじめの解決等を目指していきたいと考えます。

なお、本条

例は、ホームページで御覧いただけますので、ご参照ください。



第34回

動物愛護ふれあい
作文コンクール

主催／公益社団法人東京都獣医師
会品川支部・品川区教育委員会

今年度も動物愛護週間にちな
んだ動物愛護ふれあい作文コン
クールが行われ、多数の優秀な
作品の応募がありました。

昨年9月28日に品川区役所第
三庁舎の講堂で行われた表彰式
では、区立小学校の5・6年生
40人が表彰を受け、伊藤小学校
の鈴木陽花さんと第三日野小学
校の鈴木杏梨さんが受賞者を代
表して作文を朗読しました。

第25回
春の全国小学生
ドッジボール選手権

各都道府県を勝ち抜いた48
チームが参加する第25回小学生
ドッジボール選手権全国大会が
2月21日東京体育館で開催され、
「Veges(べがース)源氏前」
が堂々ベスト8に入りました。

第40回

品川区長杯争奪
少年サッカー大会

第40回少年サッカー区長杯大
会と第29回少女サッカー区長杯
大会が1月17日～2月11日に開
催され、少年28チーム、少女4
チームが熱戦を繰り広げました。

《少年の部》

優勝 エルフシュリット品川

準優勝 品川SJC

第3位 FC大間窪

第4位 小山クラブ

《少女の部》

優勝 清水台キッカーズ

準優勝 FC大間窪



少年サッカー優勝 エルフシュリット品川

第37回

品川区長杯争奪
少年野球大会

第37回品川区長杯争奪少年野
球大会が、昨年8月30日～10月
18日に76チームの参加で開催さ
れ、好試合が展開されました。

《中学生の部》

優勝 立会キングス

準優勝 西大井倉田野球クラブ

第3位 大井西ツインズ

富士見台中学クラブ

《小学校高学年の部》

優勝 品川レインボーズ

準優勝 相生イーグルス

第3位 滝王子イーグルス

倉田スターズ

《小学校低学年の部》

優勝 倉田スターズ

準優勝 旗の台クラブ

第3位 戸越イーグルス

鈴ヶ森バイキングス



立会キングス



品川レインボーズ



倉田スターズ

第2回

教育長杯小学生
新レインボー大会

第2回教育長杯小学生バレー
ボール新人大会が1月11日に、
総合体育館で開催されました。
14チームが参加し、元気のいい声
が会場内に響き渡っていました。

優勝 立会アタッカーズV・B・C
(男子A)

準優勝 NEW ASAMADAI

第3位 大井第一エンジェルズ



立会アタッカーズV・B・C